

ボラたま隊に参加して

小・4 後藤 日向子

バリアフリーとは何か、聞いたことはあっても、意味はよく分かりませんでした。わたしはこの夏休みにボラたま隊に初めて申しこんだのですが、そのきっかけは「車いすって楽しそうだな」と思ったからで、正直バリアフリーとのつながりは想ぞうしていませんでした。しかし、四日間ボラたま隊のき画に参加して、バリアフリーの意味だけではなく、たくさんのことを学びました。

まず、バリアフリーの「バリア」とは、町や家の中のこまりごとです。それをかいけつするのがバリアフリーという考え方です。そして、バリアフリーには二つの種類があります。「ココロ」のバリアフリーと、「ハード」のバリアフリーです。ココロのバリアフリーは、こまりごとをなくすために一人一人が相手のことを考えて行動することを言います。例えば、エレベーターがまん員のとき、車いすに乗った人に場所をゆずり、自分は階だんを使うといったことです。ハードのバリアフリーの「ハード」とは、町や家の中でのこまりごとをかいけつする「物」のことを言います。例えば、スロープや点字ブロックなどがあります。バリアフリーは、心や物のこまりごとを取りのぞくことを言います。

ボラたま隊の一日目は、参加したみんなで自こしようかいをしました。そして、バリアフリーとは何かというき本を教えてもらいました。また、ピクトグラムについても学びました。

ピクトグラムはスポーツや案内表示を言葉が分からなくても目で見てわかるように絵で表したものです。自こしようかいの後、ピクトグラムを動きで表す遊びをしました。とても楽しかったし、そこで仲間とも仲よくなることができました。

二日目は車いすについて学びました。実さいに車いすに乗って仕事をしている田中さんに話を聞くと、わたしが当たり前と思っていたことができない事が分かりました。地面に落ちた物を拾うときは、じ石やらくらくハンドという道具を使わないと取れないそうです。大変だなと思いました。そして、わたしも車いすに乗ることができました。少し動かしてみると、びっくりしました。なぜなら、手がとんでもなくつかれるのです。重くて大変です。楽だなんて思っていたのが全くちがいました。足が手に変わっただけで、同じではありませんでした。足で歩くより曲がるのむずかしいし、階だんやエスカレーターも使えない。楽そうだと思っていた自分はずかしくなりました。

三日目は、お題にそった町づくりをもけいを使って行いました。お題は「緑ゆたかな町」でした。グループで考えたのですが、木はあるけどしせつがない。道がせまくて通りづらいなど、いざ考えるとバリアフリーな町づくりは本当に大変なんだと気づきました。

最終日は、これまでの学習のふり返りを書いたメモを写真やかざりといっしょに、みんなで画用紙にはりました。作業しながら、わたしは今回のボラたま隊に参加して、たくさんのに気づきました。そして、次のことを大切にしたいと思います。○「自分の周りにこまっている人がいたら、声をかけよう」だれにも話かけられなかったら、こまっている人は周りの人や町に出かけるのがこわくな

ってしまいかもしれません。②「自分にできそうなことを考えてみよう」無理をしてはいけないことも分かりました。自分のできるはんないので、やってみようと思います。③「お手伝いがあるならいっしょに行動しよう」一人ではむずかしいことも、周りがいっしょならできることはふえます。④「相手の気持ちを大切にしよう」こまっけていても、自分でやってみようと思っている人もいます。わたしたちが声をかけてことわられても、そのときは悲しまないようにしたいです。

バリアフリーは、思いやりの心からできました。ハードのバリアフリーからできたのだと思います。物をつくるのは大変だけど、ココロはすぐにできることだから、ココロはずっと大切にしたいです。今回の四日間でけい験したり学んだりしたことは、わたしだけじゃなく友達にも伝えていきたいと思います。しょう害だからとか苦手だからとかは関係なく、いっしょにすごしていける世の中になるよう、バリアフリーを大切にして生活していきたいです。